

「高島で公開討論会を開く町民の会」は、高島町を選挙区とする公職選挙において立候補者が一堂に集う公開討論会を公平・中立に開催する活動を行っている市民団体である。

当会の設立は1999年6月、公開討論会の開催支援を行っている「リンカーンフォーラム」のホームページを偶然見つけ、夏に控えた町議選でやってみようと身近な人たちに声を掛けたことから始まった。選挙は、われわれの代表または代理者として将来を任せられる人物を選ぶ大切な機会だが、政治離れや投票率低下に歯止めがかからず、ポスターや選挙カーから聞こえる名前の連呼くらいしか思い浮かばない。公営の立会演説会が廃止されてから候補者同士の政策論争はほとんど行われておらず、きちんとした判断材料に乏しい。こうした不満が根底にあったことから、候補者同士が集い公職選挙法に抵触せず政策論議を行う場を提供しようと、趣旨に賛同した10数名で取り組みを始めたのである。現在の会員数はおよそ30名だが、常時の活動は行っておらず、公開討論会企画の度にその都度呼びかけ実行委員会を組織し開催している。

われわれは、これまで4回の公開討論会を開催してきた。最初は99年8月の高島町議選である。初めての試みであり近隣に事例が無いことから、一人ひとりの立候補予定者に直接会って趣旨を訴え、法令に違反しないことを説明し、なおかつ公平・中立な運営を約束して、私たちが信頼していただくことから始めた。特に注意したのは、呼びかけのタイミングである。事前に依頼文書を一斉郵送、選挙管理委

員会や警察に企画の報告を行い、マスコミ関係に記事掲載を依頼し、その後全員に電話を掛けまくった。当日の運営方式は、首長選と違い出演者が多数になることから、いくつかのグループに分かれ登壇、順に発言する立会演説会形式を採用した。だが、出演交渉には苦勞し、さまざまな噂や憶測が飛び交って出演辞退が相次ぎ、熱意が伝わらない悔しさと開催できるかどうかの不安から直前の数日間は夜も眠れない日が続いたのを覚えている。

当日は多くの人たちに支えられ、町の文化ホール

バリューサイト
VALUE SIGHT

真の民主主義社会の 選挙で立候補者が公 町民が主催し政策判

今年は統一地方選挙がある。首長、議員の選挙は従来「地盤・カバン・看板」がモノをいった。政策公約は軽視されがちだった。間接民主制は効率的だが“お任せ民主主義”になる欠陥もある。真の民主主義社会は有権者が政策判断し結果責任をとることが前提である。高島町民はそれに挑戦し続ける…。



会場いっぱいの町民を集めて開催された高島町長選の公開討論会

を会場に開催することができたことに感謝した。開催費用は、すべてメンバーの負担金とカンパにより賄い、文字通り手弁当の取り組みであった。

第2回目は、2002年4月の町長選である。前回の実績があり、立候補者予定数も2名だったため、すぐに出演回答を得ることができた。質問テーマ選定のため事前学習会を数回実施、「〇×クイズ」等の企画を検討するなど討論会の内容にこだわった。司会は20代の男女が務め、中央公民館を会場に開催、出演者、満席の来場者ともに好評であった、会場利用料の減免を得たことも大きい成果だった。

3回目は03年8月の町議選である。「夏

だ！選挙だ！討論会！」というコピーを作り、チラシの全戸配布を行った。23名の立候補予定者全員が参加し、会場となった生涯学習館も満席となり、公開討論会が定着しつつあることを実感できた。ケーブルテレビの放映により、来場者以外にも情報を提供できたのは大きな成果だった。また、選挙啓発事業をセットに企画し、討論会の1週間前にイラン映画「1票のラブレター」上映会を実施した。

4回目は昨年4月の町長選。チラシコピーは「なじょすっぺ！たかはた」。町文化ホールを会場に満席

べている結果にも表れている。また、企画の度に高校生など若い世代にスタッフとしてかかわってもらうよう呼びかけており、「熱く演説する姿が印象的だった」「今は選挙権は無いが、20歳になったら必ず投票に行きたい」など、強烈な印象を持ってこの取り組みを経験したことが伺われる。若者の政治離れには、このような直接体験型の事業が効果的だろう。

また、われわれの取り組みは公平・中立な運営を基本とし、出演者に安心して思いを語っていただくという心掛けを大切にしている。来場者、出演者ともに趣旨に賛同して来ていただく大切なおお客様であるため、おもてなしの心を持ってお迎えしようと毎回企画時に確認し合っている。公開討論会は主催者と出演者、来場者が必要不可欠であり、その信頼関係が土台となって継続した取り組みになっていく。討論会開催のメリットが有権者に政策や人柄等の選択基準を提供するだけでなく、政治の抱える課題を明確にして、それが自らの問題だと認識できる機会を作り出すことにあるわけだから、討論会が選挙の度に当然のように開かれることが前提となり、討論会の質の向上につながり、政治を人任せにしない前向きな政治参加の風土が醸造されるものと確信している。つまり、公開討論会を通して真の民主主義を育ててゆくために、政治家とわれわれ有権者は共に協力しながら取り組んでいく必要があるのだ。

全国では、これまで1,000回を超える討論会が開かれてきた。成功失敗例を含めたノウハウが共有され、さらに進化した情報が「リンカーン・フォーラム」から提供されている。県内でも討論会開催やローカル・マニフェスト普及に「山形公開討論会実行フォーラム」や「ローカル・マニフェスト・ネットワーク山形」の支援組織が作られた。この運動がより浸透し広がっていくことを切に望むものである。

実現へ 開討論 断の場

置賜



高島で公開討論会を開く
町民の会

木村 雅博

の来場者を得て大成功に終わった。今回は主催者からの質問だけでなく、お互いに質問・回答し合う直接討論のコーナーを初めて設けた。また、町報への掲載も初めて実現し、会場費の減免を得るなど公開討論会が公共性の高い取り組みであることが認められてきたことを実感した。

討論を生で聞き、出演者を見比べることにより、活字だけでは分からない違いが本当に良く分かる。私たちの直面する課題が明確になり、他人事では済まされないことが実感できるのも公開討論会の醍醐味である。来場者の中には、当初評論家的に出演者のあら探しをしてやろうという気持ちで来る人もいるが、討論が進むうちに姿勢が前向きになり、真剣に聞き入っている姿が目立つようになる。開催後のアンケートで、ほとんどの方が良かったと感想を述

■ 木村 雅博 (きむら・まさひろ)

「高島で公開討論会を開く町民の会」事務局。

1961年4月生まれ。

米沢市内の民間企業に勤務。「ローカル・マニフェスト・ネットワーク山形」運営委員。「公開討論会実行フォーラム山形」事務局。

〒999-2178 東置賜郡高島町上平柳1995-15

リンカーン・フォーラムホームページ：

<http://www.touronkai.com>